

「くまナビ評価問題」 小学校 算数 活用のポイント

対象学年:第5学年以上
領域・単元等 「面積」

1. 作成の趣旨

「図形」の領域において、**図形を構成する要素や関係から、問題解決に必要な情報を自ら探し出し、問題解決する力の育成**をねらいとして、本問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

- 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。〔5年知識・技能B(3)ア(ア)〕
- 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。〔5年思考・判断・表現B(3)イ(ア)〕

2. 活用場面(例)

例1【単元末の適用問題として】

〈啓林館5年:10月頃 東京書籍5年:12月頃〉

⇒活用後について

定着が不十分な場合は、平行な2直線の性質を復習したり、底辺や高さに色をつけて問題解決に必要な情報を整理したりするなどして、定着を図りましょう。

例2【6年「立体の体積」のレディネスとして】

〈啓林館6年9月頃 東京書籍6年10月頃〉

3. 「面積」の学習における授業の充実に向けて

- 基本図形の面積を求めることに加え、底辺の取り方を変えて面積を求めて結果を比べたり、高さが図形の外にある図形の面積を求めたりするなど、底辺と高さの関係を理解する場面を設定しましょう。
- 「面積」の学習では、基本図形の面積の公式の理解することに加え、その公式を活用できるようにすることが大切です。実態に応じて、情報過多な問題場面等を設定し、児童自らが必要な情報を整理したり、選択したりする活動を通して思考する機会をつくりましょう。



T:図形に分かったことを書き込みながら、考えてみましょう。

C:A公園の形は平行な直線の性質から、底辺が75mといえるね。

C:ということは、高さは…

